

本仮設兼用 鋼 - コンクリート合成壁

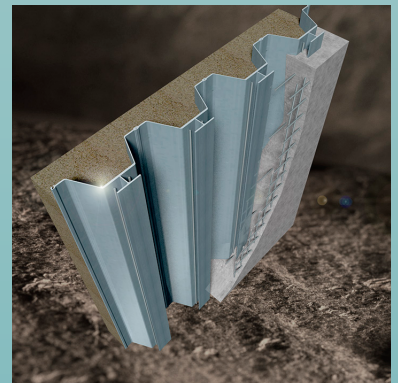
J-WALL® II 工法

仮設土留めとして用いたシートパイルを現場打ち
コンクリートと一体化してそのまま本設利用する工法です

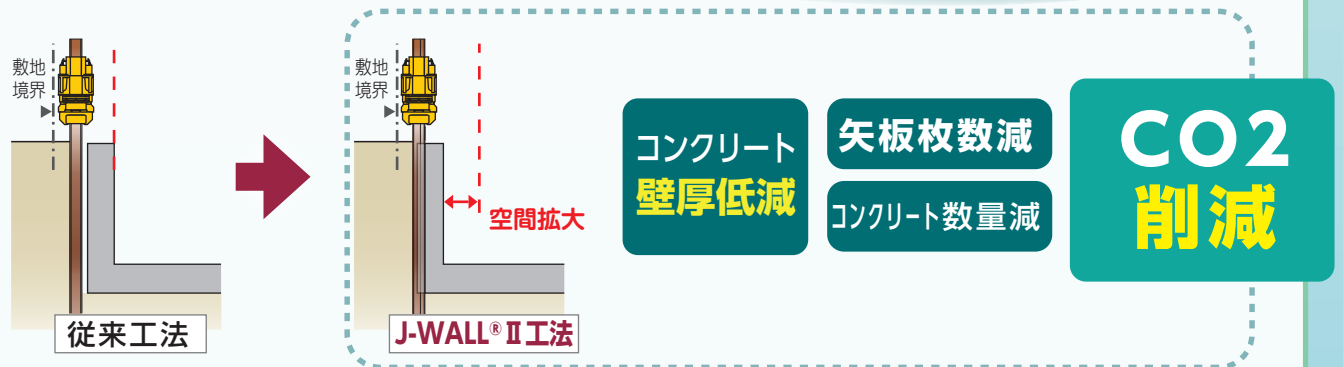
(株)大林組・ジェコス(株)との共同開発

特長

- 終局状態まで鋼 - コンクリートが一体構造として外力に抵抗するため、構造上必要な壁厚を最大 60% 程度薄くできます。また、主鉄筋の数量を 50% 以下に削減できます。
- RC 躯体部の施工数量削減・埋戻し不要のため、合成壁の構築費を約 10% 削減、工期を約 30% 短縮できます。



従来工法から J-WALL® II 工法に置き換えると



従来工法による土留め（掘削体積 22.8 百 m³）を J-WALL® II 工法に置き換えた場合

【鋼矢板】 (840-670) t×1,900kg-CO₂eq/t / 14kg-CO₂eq = 24,200 本
【鉄筋】 (106-36) t×1,900kg-CO₂eq/t / 14kg-CO₂eq = 9,900 本
【支保工】 (520-468) t×1,900kg-CO₂eq/t / 14kg-CO₂eq = 7,400 本
【コンクリート】 (1,760-1,200) m³ × 270kg-CO₂eq/t / 14kg-CO₂eq = 10,800 本

50 年スギ炭素貯蔵量 : 14 kg-CO₂/ 本 / 年として換算
(林野庁 HP : 森林の二酸化炭素吸収力より)

カーボンニュートラルに必要な杉

約 52,000 本
削減



JFE スチール 株式会社
建材技術部 土木技術室

TEL:03-3597-4469
FAX:03-3597-3825

土木製品
サイト

